

土木学会誌編集委員一同

委員長	増岡 康治	* 印は幹事					
委員	浅沼 堯	岡田 哲夫*	小笹 太郎	尾仲 章	北田 勇輔	国広 安彦	堺 幸七
	渋谷 祥夫	高橋 裕	土居 則夫	富永 正照	綱田 照美	仁木 理夫	西 敏賢
	服部昌太郎*	前田 進	町田富士夫	松本 嘉司	丸山 速夫	宮田 浩邇	本山 壽
	森野 敏夫	横山 義一	吉田 正吾	米田 宗弘	和田 万里		
地方委員	(北海道支部)	(東北支部)	(関東支部)	(中部支部)	(関西支部)	(中四支部)	(西部支部)
	河野 文弘	岩崎 敏夫	進藤 忠夫	加藤 晃	谷本 喜一	川上 賢司	徳光 善治
	渡辺 昇	倉西 茂	中山 隆	細井 正延	山田 善一	船越 稔	沼田 耕一

土木学会職員一同

会員の入退会について(昭和 41.11.1~11.30)

入会	86名(正 34 学 44 特 1.C 2 特 1.D 6)
復活	1名(正)
退会	25名(正 20 学 4 特 1.C 1)
死亡	1名(正)
転格	10名(学→正 8 特 1.D→特 1.C 2)

特別会員の入退会

○入 会

昭和 41.11. 9	特 1.C	玉野測量設計KK	名古屋市東区小川町 49
" 41.11. 1	"	三和建设コンサルタンツKK	東京都豊島区巢鴨 6 丁目 1344
" " 特 1.D		麻生高圧コンクリートKK	福岡県柏屋郡久山町大字久原 3776-13
" 41.11. 2	"	大有道路建設KK	名古屋市中区桜田町 48
" 41.11. 1	"	日本建機開発工業会	東京都千代田区丸ノ内 3-2 新東京ビル
" " "		KKエーピーエス	東京都新宿区三栄町 9
" 41.11. 4	"	KK極東技術コンサルタント	東京都豊島区西池袋 5 丁目 24 番 9 号
" 41.11.19	"	和一産業KK	韓国ソウル特別市中区長橋洞 26

○退 会

昭和 41.11.26	特 1.C	KK東京鉄骨橋梁製作所札幌出張所	札幌市南 1 条西 2-15 1 斎藤ビル 3 階
-------------	-------	------------------	---------------------------

○転 格

昭和 41.11.26	特 1.D→特 1.C	佐田建設KK	群馬県前橋市千代田町 1 丁目 1 番 20 号
" "	"	岡崎工業KK	北九州市八幡区築地町 5

会 員 現 在 数

名 誉	正会員	学生会員	賛 助	特 級	特 1.A	特 1.B	特 1.C	特 1.D	特 2	合計	前月比(増)
61	18698	3965	30	19	16	49	204	325	52	23419	(61)

正 会 員 渡 辺 憲 君 株 木 建 設 KK 常 務 取 締 役 昭 和 41. 8.22 死 去 76 才

昭和 42 年 1 月 10 日印刷

昭和 42 年 1 月 15 日発行

土木学会誌 第 52 卷 第 1 号

印 刷 者 大 沼 正 吉 印 刷 所 株 式 会 社 技 報 堂

東 京 都 港 区 赤 坂 1-3-6

口 絵 製 版 印 刷 者 若 林 孟 夫 口 絵 写 真 印 刷 所 若 林 原 色 写 真 工 芸 社

東 京 都 港 区 芝 金 杉 川 口 町 20 番 地

発 行 者 羽 田 巖 発 行 所 社 団 法 人 土 木 学 会

東 京 都 新 宿 区 四 谷 一 丁 目

定 価 250 円 (送 料 20 円)

振 替 東 京 16828 番

電 話 (351)5130 (編 集 直 通)・5138・5139 番

# 創刊 橋梁と基礎

月刊誌 橋梁と基礎 (創刊昭和 42 年 1 月号)  
 発行日 毎月 1 回 1 日  
 体裁 A 4 判 本文 36 頁 アート紙使用  
 購読料 1 部 150 円 (送料 12 円)  
 1 か年 1,800 円 (送料 144 円)

■年間購読の方には美しいファイルを贈呈いたします。

購読の予約を付けております

- 書店へ…
- 弊社販売部へ…(予約は前金でお願いします。)
- ①郵便ふりかえで
- ②現金書留で
- ③銀行振込みで
- 三和銀行八重洲口支店  
住友銀行神田駅前支店

弊社ではこのたび橋梁技術者のご要望に添えて月刊誌 **橋梁と基礎** を創刊する運びとなりました。研究に、そして設計実務にたずさわっている若い技術者のかたがたを編集委員に迎えて、新しい雑誌を実務に役立つものとして読者にお贈りします。

**橋梁と基礎** は橋梁の上部構造と基礎の技術的問題点について現場の第一線で活躍される読者の皆さまとともに考え、解明し、あわせて新技術の開発、啓蒙、普及などにも努め、橋梁建設技術のいっそうの向上に寄与する、時代に即した、新しい技術誌でありたいと念願しております。

編集方針としては、この雑誌が現場における橋梁の調査、設計および施工上の実務に密着した資料集であり、

読者のよりよい伴侶となり得るようにしたいということであり、そのために特に誌面の寸法を A 4 判とし、図面や図表を切取ってファイルすればそれがそのまま資料集となるよう意図しております。読む雑誌であると同時に見る雑誌、使う雑誌への移行は時代の要求です。**橋梁と基礎** が新しい時代の雑誌でありたいというねらいは、こういった大型の体裁からもご察察いただけるかと存じます。

**橋梁と基礎** は現場の第一線の技術者の皆さまの雑誌でございますので、ご投稿や内容に関するご質問ご討議等をどしどしお寄せくださいますようお願い申し上げます。皆さまのご購読をお待ちいたしております。

## 建設図書

### 編集委員会



松崎彬磨  
多田安夫  
乙藤憲一  
上前行孝

建設省道路局国道第一課  
建設省土木研究所千葉支所構造橋梁部  
日本道路公団技術部構造設計課  
首都高速道路公団工務部第一工務課



吉田 巖

建設省土木研究所千葉支所基礎研究室



笹戸松二  
国広哲男  
田辺末信  
宇都一馬  
岡田哲夫  
駒田敬一  
篠原洋司

日本道路公団京浜建設局東名建設部特殊設計課  
建設省土木研究所千葉支所橋梁研究室  
建設省道路局地方道課  
東海大学工学部土木工学科  
首都高速道路公団工務部第二設計課  
建設省土木研究所千葉支所基礎研究室  
建設省道路局国道第二課

### 主な内容

- グラフィヤ 主として最近の施工例を紹介し、解説
- 解説 本欄は読者の関心の多いテーマについて順次掲載していきます。技術上の問題点などを意図的に解説します。
- 設計実務 設計計算、標準設計の適用や設計上の問題点などを実施例をまじえてとりあげていきます。
- 報告 国内で施工された主要工事のうち技術上参考となるものについて報告します。実験報告なども含みます。
- 現場 現場技術者にとって、もっとも関心の多い事項について、やさしく、くわしく解説していきます。
- 建設 設計、施工のあらゆる問題点を、あらゆる角度から選り取り上げます。
- 読者ニュース 示方書、指針、規格、標準設計、研究補助金など技術者に必要なニュースを掲載します。
- 夢とアイデアのページ (投稿歓迎) 橋梁技術が5年後に、そして10年後にどうなるか。現実在即して生まれる夢とアイデアは……
- 質疑応答 示方書、指針ならびに本誌掲載記事について、質疑をお受けします。執筆者および関係部門の責任ある先生方にご解答をお願いします。
- 読者のページ 本誌に関する感想、要望点その他を、本誌編込みのハガキに記入してどしどしお寄せ下さい。(トク名でも結構です。)

## — 創 刊 号 目 次 —

グラフィア  
創刊号によせて

解説資料  
設計資料

報 告

講座  
座談会  
技術ニュース

夢とアイデア

東名高速道路多摩川橋		
創刊に期待する……………	村上 永一	
創刊に寄せて……………	中島 武	
PCグイについて……………	岡田 哲夫	
東名高速道路 連続合成ゲタ橋	}	
多摩川橋の設計 (前編)		笹戸 松二
	}	
		工藤 哲夫
	}	
		森 国夫
新青柳橋の計画と比較設計について……………		太田 実夫
	}	
		岡本 増夫
	}	
		足立 義雄
玄海橋設計施工の概要について……………	東 義雄	
大富橋RC継ぎグイ試験について (前編)……………	江口 昂三	
道路橋下部構造設計指針 (調査編)の解説 (その1)…	吉中 竜之進	
場所打ちグイ設計施工の問題点をつく……………	岡田 哲夫ほか	
新しい鋼材のJIS		
橋梁基礎鋼管グイの横抵抗増加工法に関する研究		
長大スパン橋とその基礎について (前編)……………	中山 義昭	

## — 2 月 号 目 次 —

(1部変更することもあります)

グラフィア  
解説資料  
設計資料

報 告

講座  
技術ニュース

夢とアイデア

首都高速道路公団の現場紹介	
高力ボルト摩擦接合……………	篠原 洋司
クイ基礎の計算 (前編)……………	矢作 枢
東名高速道路 連続合成ゲタ橋	}
多摩川橋の設計 (後編)	
	}
	}
安芸大橋 (ニールセン型式) の	}
上部工について……………	
	}
鋼グイの半自動溶接について……………	吉岡 繁
玄海橋設計施工の概要について (後編)……………	東 義雄
大型PCブロック工法の概要について	
(首都高速道路公団2号分岐線)……………	金光 宏
道路橋下部構造設計指針 (調査編)の解説 (その2)…	吉中 竜之進
F13Tボルトの現状	
「第2回日本地震工学シンポジウム(1966)」	
長大スパン橋とその基礎について (後編)……………	中山 義昭